

奈良へようこそ

近鉄電車で奈良まで来てもらう少し手前の「大和西大寺駅」を発車すると、すぐにだだっ広い空き地が目飛び込んできます。ここが710年元明天皇によって飛鳥の藤原京から遷都された平城京の中心地“平城宮跡”です。右に“朱雀門”左に“大極殿”を見ることができます。世界遺産で国営公園でもある“平城宮跡”を近鉄奈良線が横断しているのですが、今年4月、移設が本格的に検討されることになりました。皆さんが次に奈良を訪れるとき“平城宮跡”は車窓から見られなくなっているかも知れませんね。



奈良は神社と寺院のまちです。地味で静かなまちだったのですが、近年外国人観光客が増えて少し騒々しくなりました。

奈良県には世界遺産が3件あります。

- 1) 法隆寺地域の仏教建造物 (生駒郡斑鳩町)
- 2) 古都奈良の文化財 (奈良市)
- 3) 紀伊山地の霊場と参詣道 (五條市・吉野郡吉野町他、和歌山県、三重県)

1) 1995年に日本で最初に世界文化遺産に登録されました。(姫路城、世界自然遺産の知床等とともに) 7世紀に建設された仏教寺院は世界最古の木造建築で初期の仏教建築様式で作られています。
法隆寺・法起寺

2) 1998年に世界文化遺産に登録
710年から74年間日本の都“平城京”として栄えた歴史的遺構。
興福寺・元興寺・春日大社・東大寺・平城宮跡・薬師寺・唐招提寺・春日山原始林

3) 2004年に世界文化遺産に登録
霊場(吉野・大峯・熊野三山・高野山)とそれらを結ぶ参詣道(巡礼路)から成っています。
吉野山・吉野水分神社・金峯山寺・大峰山寺他・大峯奥駈道・熊野参詣道小辺路

今回は、2)の東大寺・春日大社・元興寺・興福寺を散策します。
4社寺とも世界遺産に登録されていますが、国宝の宝庫でもあります。もちろんその全てに接することはできませんが、できるだけ紹介します。

平城宮跡は前述の車窓から、春日山原始林も雰囲気だけを感じてもらおうと思います。

◎東大寺（とうだいじ）

- ・聖武天皇と光明皇后が早逝した基皇子（もといのみこ）の菩提を弔うため、良弁（ろうべん）僧正らを住ませた金鐘寺（こんしゅじ）が起源といわれています。
- ・743年聖武天皇が大仏造立の詔を発し、造立には幅広い民衆の支持が必要なことから、当時は異端僧だった行基（ぎょうき）を大僧正として迎え入れ事業を推進しました。752年菩提僊那（ぼだいせんな）を導師として大仏開眼供養が行われ758年には大仏殿が完成しました。華嚴宗の大本山。
- ・主な祭礼：修二会（3月） 聖武天皇祭（5月） 万灯供養会（8月） 良弁忌（12月）



○南大門 《国宝》

- ・創建時に建立されましたが962年の台風によって倒壊しました。その後重源（ちょうげん）が再建し1199年上棟、1203年安置された仁王像とともに竣工。高さ25.4mで国内最大の山門と言われています。（京都知恩院の三門は高さ24m）
- 金剛力士像（仁王像） 《国宝》
- ・1203年運慶・湛慶・快慶らの仏師によって70日間で2体同時に完成したと言われます。像高8.4m。向かって左が“阿形（あぎょう）”、右が“吽形（うんぎょう）”

○大仏殿（金堂） 《国宝》

- ・大仏殿は758年に建立。1180年平重衡の南都焼き討ちによって焼失、再建されましたが、1567年の松永・三好の合戦によって再び焼失、江戸時代に公慶上人が1709年に再建しました。
- ・高さ46.8m・間口57m・奥行50.5m世界最大級の木造建築物で国宝中最大のもの。
ちなみに最小の国宝は“漢委奴国王金印”で一辺が2.3cm。
- 八角燈籠 《国宝》
- ・総高4.64m。度々修理されていますが基本的には奈良時代創建時のもの。4面に音声菩薩（おんじょうぼさつ）像が鑄出されており、西北面と西南面は当初のものといわれます。
- 毘盧遮那仏（るしゃなぶつ） 《国宝》



- ・752年開眼供養。二度の戦火にあいましたがその都度再建され1692年に開眼供養が行われました。“奈良の大仏”として有名で、像高14.98m。台座・袖などは当初のものですが、体の大部分は戦国時代、頭部は江戸時代のものです。



（右上の写真は8月15日の万灯供養会で、右下の写真は8月7日の大仏さまお身拭いです）

○二月堂 《国宝》

- ・旧暦 2 月にお水取り（修二会）が行われることからこの名があります。二度の戦火は免れましたが、修二会の最中に失火で焼失、2 年後に再建されたのが現在の建物。
- ・修二会は正式には「十一面悔過（じゅういちめんげか）」といい、人々が犯した過ちを本尊の十一面観音に懺悔し、鎮護国家・天下泰平・五穀豊穰など国と人々の幸福を願うもので、「不退の行法」として 752 年から現在まで 1 回も途切れず引き継がれてきました。



○開山堂 《国宝》

- ・初代別当良弁僧正の肖像を安置するための堂。南大門とともに大仏様建築の数少ない遺作。安置されている“木造良弁僧正座像”も国宝。

○法華堂（三月堂） 《国宝》

- ・寄棟造の正堂は 733 年建立された東大寺最古の建造物で入母屋造の礼堂は鎌倉時代のもの。
- ・本尊の“不空罽索観音”・“帝釈天”・“梵天”など数多くの国宝が安置されている。東大寺ミュージアムに移管されている“日光菩薩”・“月光菩薩”などの仏像も含め天平仏の宝庫。

○その他の国宝建造物

◦転害門（てがいもん）

- ・二度の戦火でも消失を免れた天平時代の遺構と言われています。

◦鐘楼・梵鐘

- ・“鐘楼”は鎌倉時代に栄西が再建。“梵鐘”は知恩院・方広寺とともに三大梵鐘の一つ

◦本坊経庫（ほんぼうきょうこ）

- ・奈良時代の校倉造の倉庫。

◎手向山八幡宮（たむけやまはちまんぐう）

- ・東大寺及び大仏建立にあたり、749 年に大分の宇佐八幡宮から東大寺の守護神として勧請されました。そのため、応神天皇・仲哀天皇・神功皇后他が主祭神になっています。
- ・主な祭礼：お田植祭り（2 月節分）



◎若草山（わかくさやま）

- ・毎年 1 月の第 4 土曜日に山焼きが行われます。東大寺と興福寺による領地争いと言われてきましたが定かではありません。山焼きを始める式典で、居並ぶ消防団員に「今日だけは思いっきり火をつけてこい」と団長から檄が飛びます。



◎春日山原始林（かすがやまげんしりん）

- ・古来春日大社の神山として信仰の場であったため、狩猟と伐採が禁止され、また積極的な保護により原始性を保ってきました。厳密な意味での原始林ではありませんが、国の特別天然記念物に指定され、世界で一番市街地に近い原始林といわれています。



◎春日大社（かすがたいしゃ）

- ・藤原氏の氏神を祀るために 768 年に創設されました。武甕槌命（たけみかづちのみこと）が白鹿に乗って来たことから鹿を神使としています。奈良公園の鹿は国の特別天然記念物として保護されています。
- ・境内の「社頭（しゃとう）の大杉」は樹齢 800 年以上の大杉。700 年前に書かれた「春日権現験記」には幼木の姿で描かれていることから、「杉の木以外は 700 年前と同じ風景だ」と宮司の花山院さんが話していました。
- ・2015 年から始まった 20 年に一度執り行われる“式年造替”は社殿の修理が 2016 年に完了し 11 月 6 日神々が還り様々な奉祝の行事が行われました。
- ・「春日若宮おん祭」は摂社若宮神社（天兒屋根命と比売神の子を祀る）の祭礼で、12 月に数日に渡って行われます。1136 年藤原忠通によって始められ、1 回の中断もなく今日まで続いています。「おん祭」で奉納される「猿楽」や「雅楽」・「舞楽」などの芸能は、「春日若宮おん祭の神事芸能」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。
- ・主な祭礼：神楽始式・春日の大とんど（1 月） 節分万燈籠（2 月） 御田植神事（3 月） 夏越しの大祓式（6 月） 中元万燈籠（8 月） 采女祭（9 月）



○神殿 4 棟 《国宝》

- ・鹿島の武甕槌命（たけみかづちのみこと）・香取の経津主命（ふつぬしのみこと）・枚岡の天兒屋根命（あめのこやねのみこと）・その妻の比売神（ひめがみ）4 柱が主祭神です。

○その他の国宝

- ・「国宝殿」に安置される“金地螺鈿毛抜形太刀”・“赤糸威鎧兜”など美術工芸品多数。

◎浮見堂（うきみどう）

- ・奈良公園の鷺池（さぎいけ）に浮かぶ檜皮葺きの六角堂です。水面に映る姿が美しく、周辺の桜や百日紅も美しい。
- ・普段は比較的静かな池ですが、8 月の「なら燈花会」ではボートに提灯の火がともり華やいだ雰囲気になります。



◎元興寺（がんごうじ）

- ・蘇我馬子が飛鳥に建立した日本最古の仏教寺院である「法興寺」がその前身と伝わります。
- ・かつては南都七大寺の一つとして奈良市の南西部を境内とする広大な寺院でしたが、現在は僧坊遺構の極楽堂と禅室を残すだけになっています。
- ・主な祭礼：節分会（2月節分） 地藏盆万灯供養（8月）



○本堂（極楽坊本堂） 《国宝》

- ・寄棟造。屋根瓦の一部には飛鳥～奈良時代の古瓦が残っています。独特の形でこの瓦を重ねる葺き方を「行基葺（ぎょうきぶき）」といいます。また、内陣周囲の太い角柱や天井板材にも奈良時代の部材が使用されています。

○禅室（僧坊） 《国宝》

- ・切妻造。本堂と同様に奈良時代の瓦や木材が残っています。

○五重小塔 《国宝》

- ・高さ 5.5mほどの小塔ですが、内部構造まで省略せずに忠実に造られており、「工芸品」ではなく「建造物」として国宝に指定されています。



◎猿沢池（さるさわいけ）

- ・興福寺が行う「放生会（ほうじょうえ）」の放生池として 749 年に造られた人工池。
- ・池のほとりにある「采女（うねめ）神社」は帝の寵愛が衰えたことを嘆き悲しんで入水した采女の霊を慰めるために建てられたといわれます。
- ・采女祭は毎年中秋の名月に催されます。優雅な雅楽が流れる中、2 隻の管弦船が、池に浮かぶ灯籠の間をぬって池を巡る雅やかな行事です。



◎興福寺（こうふくじ）

- ・藤原氏の氏寺。730年藤原不比等の娘である光明皇后が建立しました。
- ・江戸時代の中ごろ大規模な火災に巻き込まれ、金堂・西金堂・講堂・南大門などが焼失しました。中金堂が現在建設中で、2018年に落慶予定です。
- ・明治までは広大な境内を誇っていましたが、その大部分は「奈良公園」として整備されています。
- ・国宝の仏像（彫刻）は全国で131件ですが、興福寺は法隆寺と並び最多の17件を所蔵しています。

○三重塔 《国宝》

- ・1143年建立。1180年に焼失しましたが間もなく再建されました。北円堂とともに興福寺最古の建物といわれています。

○南円堂

- ・813年に藤原冬嗣が父の菩提を弔うために建立した八角堂で、現在の建物は1789年に再建されたものです。
- ・西国三十三観音霊場の第9番札所
- ・国宝の“不空罽索観音”や“四天王像”。他が祀られています。



○五重塔 《国宝》

- ・5回の焼失・再建を経て1426年に再建されました。高さは50.1mで東寺五重塔（54.8m）に次ぐ2番目に高い五重塔。
- ・初層には「釈迦三尊像」ほか多くの仏像が安置されていますが、いずれの仏像も国宝ではありません。

○東金堂 《国宝》

- ・726年聖武天皇が伯母の元正天皇の病氣平癒を祈願するために建立。6度被災し、1415年に再建されました。
- ・国宝の“文殊菩薩像”・“十二神将像”など多数の仏像が安置されています。



○仮講堂

- ・1974年に建立されました。
- ・国宝館が耐震改修工事で年内休館するため主だった国宝を展示しています。“八部衆像”の一人“阿修羅（あしゅら）像”は東京の展示会以降爆発的に有名になりました。“天燈鬼・龍燈鬼（てんとうき・りゅうとうき）像”も。

○北円堂 《国宝》

- ・法隆寺の夢殿と同じく平面が八角形の「八角円堂」です。
- ・721年元正天皇と元明上皇が長屋王に命じて建立。1180年に焼失しましたが1208年頃に再建され、三重塔とともに興福寺で最も古い建物といわれています。
- ・国宝の“弥勒菩薩像”・“無著・世親菩薩像”他多数の仏像が安置されています。

「古都奈良の文化財」を主体に散策してきましたが、これで終わりです。奈良がもつ独特の雰囲気少しでも伝わったら嬉しいです。

3月1日～15日 修二会（お水取り）
お松明に点火され階段を登って行きます



初夜上堂



お松明の火の粉が舞います



最終日は10本のお松明が一斉に



5月2日 聖武天皇祭



7月28日 解除会



9月17日 十七夜



3月15日 御田植え祭



8月15日 中元万燈籠



6月30日 夏越大祓式



12月17日 春日若宮おん祭



御旅所祭 (神子の神楽)



神楽式 (鈴の段)



舞楽 (蘭陵王)



12月18日 後宴能 (鍾馗)

